



TODAY
FOR
TOMORROW

AUJOURD'HUI
POUR
DEMAIN



「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」の概要報告

平成27年3月

文部科学省国際統括官付

目次

第一部 概要報告.....	1
1 会議の種類・期間・場所.....	1
2 主要日程.....	3
(1) 閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合.....	4
(2) ステークホルダーの主たる会合.....	5
3 テーマ.....	6
4 成果.....	6
(1) 各種宣言の採択.....	6
(2) 「国連ESDの10年」の後継プログラムである「グローバル・アクション・プログラム(GAP)」 開始の正式発表.....	8
(3) 「ユネスコ/日本ESD賞」創設の正式発表.....	9
5 閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合の結果.....	10
(1) 開会全体会合.....	10
(2) ハイレベル円卓会議.....	12
(3) 第2回全体会合.....	17
(4) 第3回全体会合.....	18
(5) 閉会全体会合.....	19
(6) ワークショップ.....	21
(7) サイドイベント.....	31
(8) 展示.....	39
(9) 併催イベント.....	49
(10) 記者会見.....	55
(11) 千玄室大宗匠(ユネスコ親善大使/裏千家第15代家元)による記念茶会.....	56
(12) 日本政府主催 歓迎レセプション.....	56
(13) ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会主催 歓迎レセプション.....	59
(14) 学生ボランティア.....	60
(15) 写真で見る会議の一コマ.....	61
6 ステークホルダーの主たる会合の結果.....	63
(1) ユネスコスクール世界大会.....	63
(2) ユネスコESDユース・コンファレンス.....	74
(3) 持続可能な開発のための教育に関する拠点(RCE)の会議(第9回グローバルRCE会議).....	79
(4) ESDに関するユネスコ世界会議岡山支援実行委員会等主催 オープニングセレモニー.....	80
(5) 写真で見る会議の一コマ.....	82
7 関連会議.....	84
(1) フォローアップ会合.....	84
(2) ESD推進のための公民館 - CLC 国際会議.....	86
(3) 持続可能な開発のための高等教育に関する国際会議.....	87

第二部 参考資料.....	89
1 宣言等	
資料1 あいち・なごや宣言【英語】.....	93
資料2 同上 【日本語】(仮訳).....	95
資料3 ユネスコスクール世界大会 Student(高校生)フォーラム共同宣言 【日本語】.....	99
資料4 同上 【英語】.....	101
資料5 ESD 推進のためのユネスコスクール宣言(ユネスコスクール岡山宣言) 【日本語】.....	103
資料6 同上 【英語】(仮訳).....	107
資料7 ユース・ステートメント【英語】.....	111
資料8 同上 【日本語】(仮訳).....	117
資料9 2014 年以降の RCE と ESD に関する岡山宣言(RCE 岡山宣言)【英語】.....	123
資料10 同上 【日本語】.....	125
資料11 グローバル・アクション・プログラム(GAP)【英語】.....	127
資料12 同上 【日本語】(仮訳).....	135
2 会議プログラム等	
資料13 閣僚級会合及び全体のとりまとめ会合 プログラム【英語】.....	141
資料14 同上 【日本語】.....	151
資料15 閣僚級会合及び全体のとりまとめ会合 フロアプラン【英語】.....	163
資料16 Student(高校生)フォーラム・教員フォーラム プログラム【英語】.....	167
資料17 第6回ユネスコスクール全国大会 プログラム【日本語】.....	171
資料18 ユネスコ ESD ユース・コンファレンス プログラム【英語】.....	173
資料19 持続可能な開発のための教育に関する拠点(RCE)の会議(第9回グローバル RCE 会議) プログラム【英語】.....	181
資料20 同上 【日本語】.....	183
資料21 フォローアップ会合 プログラム【日本語】.....	185
3 挨拶	
資料22 イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長 閣僚級会合及び全体のとりまとめ会合 開会全体会合 挨拶【英語(一部、仏語)】.....	187
資料23 皇太子殿下 閣僚級会合及び全体のとりまとめ会合 開会全体会合 おことば【英語】 ※日本語訳あり.....	193
資料24 下村博文文部科学大臣 閣僚級会合及び全体のとりまとめ会合 開会全体会合 挨拶【英語】 ※日本語訳あり.....	197
資料25 大村秀章愛知県知事 閣僚級会合及び全体のとりまとめ会合 開会全体会合 挨拶【英語】 ※日本語訳あり.....	201
資料26 山中伸一文部科学事務次官 ユネスコスクール世界大会 Student(高校生)フォーラム 開会式 挨拶【英語】 ※日本語訳あり.....	205
資料27 大森雅夫岡山市長 ユネスコスクール世界大会 Student(高校生)フォーラム 開会式 挨拶 【英語】.....	209
資料28 赤池誠章文部科学大臣政務官 ユネスコスクール世界大会 Student(高校生)フォーラム 挨拶 【英語】 ※日本語訳あり.....	211
資料29 イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長 ユネスコスクール世界大会 Student(高校生)フォーラム 挨拶【英語】.....	215
資料30 藤井基之文部科学副大臣 ユネスコスクール世界大会 第6回ユネスコスクール全国大会 開会式 挨拶【日本語】.....	221

資料 31	安西祐一郎日本ユネスコ国内委員会会長 ユネスコスクール世界大会 第6回ユネスコスクール全国大会 開会式 挨拶【日本語】	223
資料 32	赤池誠章文部科学大臣政務官 ユネスコスクール世界大会 ユネスコ ESD ユース・コンファレンス 開会全体会合 挨拶【英語】※日本語訳あり	225
資料 33	イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長 ユネスコスクール世界大会 ユネスコ ESD ユース・コンファレンス 開会全体会合 挨拶【英語】	229

4 出席者

資料 34	閣僚級会合及び全体のとりまとめ会合 出席者リスト(閣僚級リスト含む)	235
資料 35	Student(高校生)フォーラム・教員フォーラム 参加国・参加校リスト	307
資料 36	ユネスコ ESD ユース・コンファレンス 出席者リスト	309

5 報道発表資料

資料 37	ESD 世界会議 愛知・名古屋で開幕 (2014年11月10日)【英語】	315
資料 38	同上 【日本語】(仮訳)	317
資料 39	ESD 世界会議、全世界の国々に新たな誓約を求める (2014年11月12日)【英語】	319
資料 40	同上 【日本語】(仮訳)	321

6 その他

資料 41	あいち・なごや宣言起草委員会 構成メンバー	323
資料 42	「ESD あいち・なごや子ども会議」メッセージ【英語、日本語】	325
資料 43	.岡山コミットメント(約束)2014 ～コミュニティに根ざした学びをとおして ESD を推進するために、「国連 ESD の 10 年」を超えて～【英語】	329
資料 44	同上 【日本語】	333
資料 45	持続可能な開発のための高等教育に関する名古屋宣言【英語】	337
資料 46	同上 【日本語】(仮訳)	341

7 関連ウェブサイト

第一部 概要報告

1 会議の種類・期間・場所

2014年11月に日本政府とユネスコ等の共催によって、愛知県名古屋市、岡山市にて「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」が開催されました。

日本からは、皇太子同妃両殿下の御臨席、下村文部科学大臣、安西日本ユネスコ国内委員会会長始め政府、ユネスコ関係者、専門家の方々に御出席いただきました。

I. 閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合

日程：2014(平成26)年11月10日(月)
から12日(水)まで

会場：名古屋国際会議場(愛知県名古屋市)
主催：ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)、
日本政府

正式参加者：153か国・地域、1,091名
うち、閣僚級76名(69か国)
※2015年2月20日集計時点

(正式参加者以外に、一般参加者として
文部科学省主催の併催イベント(内容：
セミナー・展示、場所：名古屋国際会議場)等に2,000名以上が参加)



開会全体会合

II. ステークホルダーの主たる会合

(1) ユネスコスクール世界大会

ア. Student(高校生)フォーラム

日程：2014(平成26)年11月5日(水)
から7日(金)まで

会場：ホテルグランヴィア岡山(岡山県岡山市)
主催：ユネスコ、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会

共催：岡山市、岡山市教育委員会、岡山県、岡山県教育委員会、岡山県高等学校長協会、
公立大学法人大阪府立大学・大阪ユネスコ
スクールネットワーク

参加者(実績)：32か国(40チーム)200名
(その他、運営高校生として約600名が参加)



全体ディスカッション

イ. 教員フォーラム

日程：2014(平成26)年11月7日(金)
会場：ホテルグランヴィア岡山(岡山県岡山市)

主催：ユネスコ、文部科学省、
日本ユネスコ国内委員会
共催：岡山市、岡山市教育委員会、岡山県、
岡山県教育委員会、公益財団法人ユネス
コ・アジア文化センター(ACCU)
参加者(実績)：32 개국 40 名



グループワーク

ウ. 第6回ユネスコスクール全国大会

日程：2014(平成26)年11月8日(土)
(11月7日(金) 特別講演会・交流会)
会場：国立大学法人岡山大学 津島キャンパス
(11月7日 特別講演会・交流会は岡山プラザホテル
(岡山県岡山市))



開会式

主催：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会
共催※：国立大学法人岡山大学、岡山市、岡山市
教育委員会、岡山県、岡山県教育委員会、
NPO 法人日本持続発展教育推進フォーラム、公益財団法人ユネスコ・アジア文
化センター(ACCU)、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟(NFUJ)

協力※：ユネスコ、ユネスコスクール支援大学間ネットワーク(ASPUnivNet)

※11月7日の特別講演会・交流会は除く

参加者(実績)：35 개국 約 1,000 名

(2) ユネスコ ESD ユース・コンファレンス

日程：2014(平成26)年11月7日(金)
(11月6日(木) プレ・コンファレンス(オリエンテーション))

会場：岡山国際交流センター(岡山県岡山市)

主催：ユネスコ、文部科学省、日本ユネスコ国内
委員会、公益財団法人五井平和財団、
岡山市

参加者(実績)：

48 개국、50 名 (その他、約 30 名がオブザーバーとして参加)



ボコバ ユネスコ事務局長挨拶

(3) 持続可能な開発のための教育に関する拠点(RCE)の会議(第9回グローバルRCE会議)

日程：2014(平成26)年11月4日(火)
から7日(金)まで

会場：岡山コンベンションセンター(岡山県岡山市)

主催：国連大学サステイナビリティ高等研究所、
岡山 ESD 推進協議会、岡山市

参加者(実績)：272 名

(世界の 129RCE のうち 68RCE
(47 개국・地域)が参加)



全体会合

2 主要日程

2014年10月	11/1 土	11/2 日	11/3 月	11/4 火	11/5 水	11/6 木	11/7 金	11/8 土	11/9 日	11/10 月	11/11 火	11/12 水	11/13 木																																																																																			
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ESD 推進の ための公民 館-CLC 国 際会議 (10月9日 から12日) </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ステークホルダーの主たる会合 </div>												<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ユネスコ ESD ユー ス・コア リス </div>												<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ユネスコスクール世界大会 </div>												<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 持続可能な開発のための教育に関 する拠点(RCE)の会議(第9回グロ ーバル RCE 会議) </div>												<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 日本政府主催シセブ ション </div>												<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 持続可能な開発のための 高等教育に関する 国際会議 </div>												<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 閣僚級会合及び全 体の取りまとめ会 合 </div>												<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> フォローアップ会合 </div>											

岡山市

愛知県
名古屋市

※「ESD 推進のための公民館-CLC(コミュニティ・ラーニング・センター)国際会議」、「持続可能な開発のための高等教育に関する国際会議」、「フォローアップ会合」は、世界会議関連行事として整理

(1) 閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合

11月9日(日)	11月10日(月)	11月11日(火)	11月12日(水)
9:00	9:00	9:00	9:00
9:30	9:30	9:30	9:30
10:00	10:00	10:00	10:00
10:30	10:30	10:30	10:30
11:00	11:00	11:00	11:00
11:30	11:30	11:30	11:30
12:00	12:00	12:00	12:00
12:30	12:30	12:30	12:30
13:00	13:00	13:00	13:00
13:30	13:30	13:30	13:30
14:00	14:00	14:00	14:00
14:30	14:30	14:30	14:30
15:00	15:00	15:00	15:00
15:30	15:30	15:30	15:30
16:00	16:00	16:00	16:00
16:30	16:30	16:30	16:30
17:00	17:00	17:00	17:00
17:30	17:30	17:30	17:30
18:00	18:00	18:00	18:00
18:30	18:30	18:30	18:30
19:00	19:00	19:00	19:00
19:30	19:30	19:30	19:30
20:00	20:00	20:00	20:00
20:30	20:30	20:30	20:30
21:00	21:00	21:00	21:00
22:00	22:00	22:00	22:00

11月9日(日)	11月10日(月)	11月11日(火)	11月12日(水)
9:00 - 9:30	9:00 - 9:30	9:00 - 10:30	9:00 - 10:30
10:00 - 10:30	10:00 - 10:30	10:30 - 11:00	10:30 - 11:00
11:00 - 11:30	11:00 - 11:30	11:00 - 13:15	11:00 - 13:15
12:00 - 12:30	12:00 - 12:30	13:15 - 15:15	13:15 - 15:15
13:00 - 13:30	13:00 - 13:30	15:15 - 17:30	15:15 - 17:15
14:00 - 14:30	14:00 - 16:00	19:00 - 21:00	17:30 - 18:15
15:00 - 15:30	16:00 - 16:30		
16:00 - 16:30	16:30 - 18:45		
17:00 - 17:30	19:00 - 21:00		
18:00 - 18:30			
19:00 - 19:30			
20:00 - 20:30			
21:00 - 21:30			
22:00 - 22:30			

11月9日(日)	11月10日(月)	11月11日(火)	11月12日(水)
9:00 - 9:30	9:00 - 9:30	9:00 - 10:30	9:00 - 10:30
10:00 - 10:30	10:00 - 10:30	10:30 - 11:00	10:30 - 11:00
11:00 - 11:30	11:00 - 11:30	11:00 - 13:15	11:00 - 13:15
12:00 - 12:30	12:00 - 12:30	13:15 - 15:15	13:15 - 15:15
13:00 - 13:30	13:00 - 13:30	15:15 - 17:30	15:15 - 17:15
14:00 - 14:30	14:00 - 16:00	19:00 - 21:00	17:30 - 18:15
15:00 - 15:30	16:00 - 16:30		
16:00 - 16:30	16:30 - 18:45		
17:00 - 17:30	19:00 - 21:00		
18:00 - 18:30			
19:00 - 19:30			
20:00 - 20:30			
21:00 - 21:30			
22:00 - 22:30			

会場：ウエストインナゴヤキャッスル

会場：名古屋国際会議場

(2) ステークホルダーの主たる会合

11/4	11/5	11/6	11/7	11/8
火	水	木	金	土
<p>1. ユネスコスクール世界大会</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 45%;"> <p>(1) Student(高校生)フォーラム 参加者: 海外 31 か国から 155 名及び 日本 9 地域から 45 名の高校生・教員 (高校生 4 名、教員 1 名/チーム) 会場: ホテルグランヴィア岡山</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 45%;"> <p>(2) 教員フォーラム 参加者: Student(高校生)フォーラム参加 教員 40 名 会場: ホテルグランヴィア岡山</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px; width: 80%; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>(3) 第 6 回ユネスコスクール全国大会 参加者: 国内外の ユネスコスクール教員等 約 1,000 名 会場: 岡山大学</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 5px; width: 60%; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>特別講演会・交流会 参加者: 約 250 名 会場: 岡山プラザホテル</p> </div> </div>				
<p>2. ユネスコ ESD ユース・コンファレンス</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 30%;"> <p>プレ・コンファレンス (オリエンテーション) 会場: 岡山国際交流センター</p> </div> <div style="width: 60%;"> <p>参加者: 世界各国の 18～35 歳の ESD 実践者等 50 名 会場: 岡山国際交流センター</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px; width: 20%; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>フェアウェルパーティー 主催: ESD に関するユネスコ世界会議岡山支援実行委員会 会場: ホテルグランヴィア岡山</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px; width: 20%; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>Student(高校生)フォーラム交流会 主催: 岡山市 会場: 岡山コンベンションセンター</p> </div>				
<p>3. 持続可能な開発のための教育に関する拠点 (RCE) の会議 (第 9 回グローバル RCE 会議)</p> <p>参加者: 272 名 (世界の 129RCE のうち 68RCE(47 か国・地域)が参加) 会場: 岡山コンベンションセンター</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px; width: 30%; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>オープニングセレモニー 主催: ESD に関するユネスコ世界会議岡山支援実行委員会・岡山市 会場: 岡山シンフォニーホール</p> </div>				

3 テーマ

会議では、「持続可能な未来に向けて今 学ぶ(Learning Today for a Sustainable Future)」を掲げ、以下の四つの具体的なテーマに基づいて、全体会合、ワークショップが行われました。

(1) 10年間の成果から

－何を達成できたか、また、どのような教訓が得られたか－

(2) 万人にとってより良い未来を築くための教育の新たな方向性

－ESDは質の高い教育の強化にどのように役立つのか－

(3) 持続可能な開発のための行動促進

－ESDを通じて、持続可能性という課題にどのように取り組めるのか－

(4) ポスト2014年のためのESDアジェンダの策定

－私たちの共通の未来のための戦略とは－

4 成果

(1) 各種宣言の採択 ※宣言の詳細は「第二部 参考資料 1～10」参照

ア. 『あいち・なごや宣言』

この宣言は、閣僚級会合及び全体のとりまとめ会合の閉会全体会合において、全会一致で採択されました。国連ESDの10年の成果、閣僚級会合及び全体のとりまとめ会合及びステークホルダーの主たる会合での議論を踏まえて取りまとめられたもので、ESDを主流化し、ポスト2015年アジェンダにESDを取り入れるため、直ちに行動することを求める内容となっています。

1 これまでの評価

1. 国連ESDの10年に多くの実質的な優れた取組が出たことを祝す。
2. ユネスコ／日本ESD賞の創設を評価する。

2 今後に向けた呼びかけ

【全てのステークホルダーへ】

- ・批判的思考、分析的問題解決、不確実なことに直面した際の決断、国際的な課題がつながっていることへの理解等に必要な知識、スキル、態度等を発達させるESDの可能性を重視する。
- ・フォーマル、ノンフォーマル、インフォーマルな環境におけるGAP開始のモメンタムを構築、維持。
- ・GAPの五つの優先行動分野におけるモニタリング、評価の方法を強化。
- ・ユースをキーとなるステークホルダーとして巻き込む。

【ユネスコ加盟国政府へ】

- ・教育政策とカリキュラムのESDのゴール達成度を評価し、教育、訓練、職能開発へESDを導入。
- ・GAPの五つの優先行動分野に沿った政策を行動に移すため、実質的資源を配分、集結。
- ・ユネスコ世界会議の成果をポスト2015年アジェンダへ反映。

【ユネスコ事務局長へ】

- ・ESDのグローバルリーダーシップを提供。
- ・ユネスコスクール等のネットワークを活用。
- ・ESDの資金を含む適切な方策を保証することの重要性を喚起。

イ. 『ユネスコスクール世界大会 Student(高校生)フォーラム共同宣言』

Student(高校生)フォーラムで採択されたもので、高校生の立場から現在と未来において、できることとなすべきこととして合意した次の5点を内容としています。

- ① ともに助け合い、持続可能性について学び合う機会を大切にして、ESDを発信していく。
- ② 地球に生きる一員として自覚を持ち、学校でESDが教えられるようになるために責任ある行動をとる。
- ③ 一人一人が責任をもって互いのつながりを育て、様々な生活様式と文化と意見を共有し尊重する。
- ④ 平和と人権と、教育によって個人が成し遂げられるものを知り、教育の果たす重要な役割を意識する。
- ⑤ これら全てを全員が意識して、個人の明確な目標を明らかにするよう全力を尽くす。

ウ. 『ESD推進のためのユネスコスクール宣言(ユネスコスクール岡山宣言)』

第6回ユネスコスクール全国大会にて採択されたもので、日本のユネスコスクールとしてのコミットメント(誓い)とユネスコスクールとすべての学校、その支援者に向けた提案をまとめています。コミットメントと提案には以下の内容が含まれています。

○ コミットメント(誓い)

- ・ 身近な地域に貢献するとともに、グローバルな視点に立って行動する次世代を育む。
- ・ 平和、環境、気候変動等の学びの入口やテーマにかかわらず、平和と持続可能性を見据えて、多くの人たちと協働しながら、つながりを意識した教育を実現する。
- ・ ESDの本質を理解し、その魅力を社会に伝えるため、児童生徒の変容、教師の変容、学校・地域の変容を明確に示す。

○ 提案

- ・ 創造的な授業づくり、教科横断的で探究的な教育課程づくりによって、学校全体でESDを進める。
- ・ ESDの成果をモニタリング・評価するための方法を検討し、共有する。
- ・ ESDを持続的に支える政策や制度をつくり、校長のリーダーシップがESDの特徴をいかした形で発揮できる基盤を整備する。

エ. 『ユース・ステートメント』

ユネスコESDユース・コンファレンスにて採択されたもので、グローバル・アクション・プログラム(GAP)に沿ったESDの推進のために、ユースのビジョン、コミットメント、提言をまとめています。会議に出席した50名だけでなく、会議前に行われたオンライン・ディスカッションを通じて集められた100名以上のユースの意見を含んでいます。提言には以下の内容が含まれています。

- ・ 政策の立案、実行及び評価におけるユースの積極的な関与を確実なものとしていくこと。
- ・ 教育機関や政府は、持続可能な社会の実現を目指す若者たち主導のプロセスに対して施設支援、資源の提供、そして活動への正当性を与えること。
- ・ 全ての市民がESDのためのファシリテーターとなり、行動する可能性と責任を持っていると認識すること。
- ・ 教育機関と政府はユースや教育者が革新的な学びのアプローチを試みることを支援し、促進すること。
- ・ コミュニティ主導型のESDの取組においてユースの声を尊重すること。
- ・ 全てのユースが持続可能性に関する課題の複雑さと不確実性、そしてそれに伴う機会について批判力をもって理解すること。

- ・ ESD を推進する教育カリキュラム及び政策を、社会的に不利な立場に置かれている人々の平等と公平の充実に向けたものとする。
- ・ ESD の目的に資するソーシャル・アントレプレナーシップの重要性を認識すること。

オ. 『2014年以降のRCEとESDに関する岡山宣言』

持続可能な開発のための教育に関する拠点(RCE)の会議(第9回グローバルRCE会議)で採択されたもので、RCEグローバルネットワークは「国連ESDの10年」以降も、グローバル・アクション・プログラム(GAP)を含む、様々な持続可能な開発に関する国際的枠組みやプロセスへの支援を通して、持続可能な社会づくりに寄与することを宣言しています。

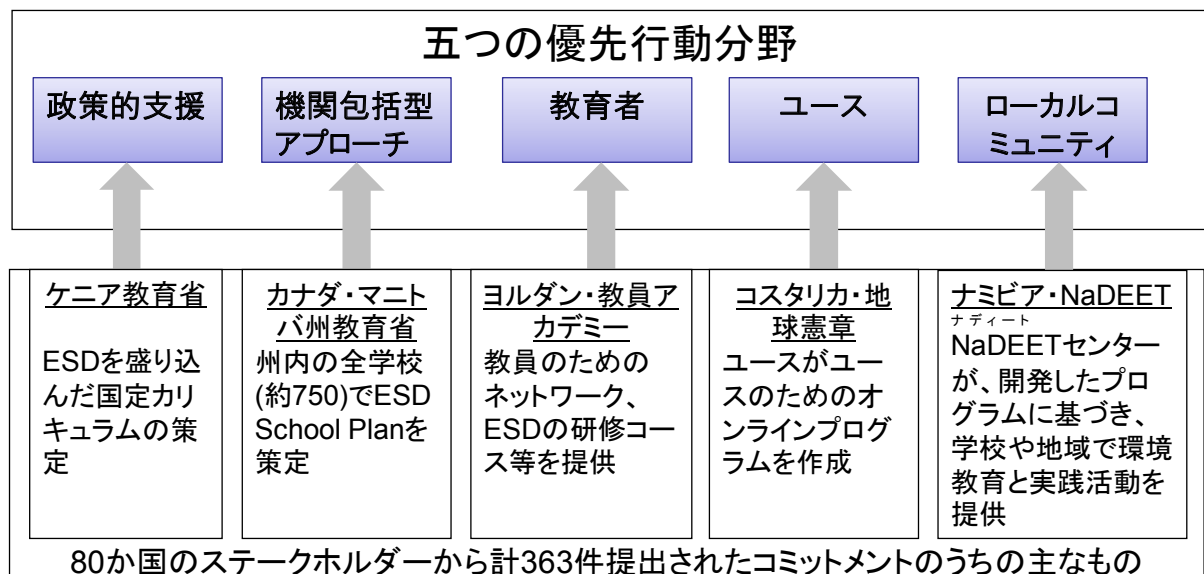
- ① RCE は、「国連ESDの10年」以降もESD活動を推進していく。
- ② RCE は、GAPにおける五つの優先事項の全てにおいて主導的役割を果たす。
- ③ 国連における「持続可能な開発目標」に貢献し、先住民や伝統知を尊重しながらESDを推進していく。
- ④ マルチステークホルダーからなるRCEの活動の推進と拡大に尽力し、参加型のガバナンス・システムを持つことでRCEの質の向上に努める。
- ⑤ ESDの長期的目標の達成を目指し、環境管理・社会的公正・あらゆる面における生活の質の保護・向上など、地域・大陸レベルでの様々な持続可能性に関する課題への運営的・戦略的クラスター及び取組を通じて貢献する。

(2) 「国連ESDの10年」の後継プログラムである「グローバル・アクション・プログラム(GAP)」開始の正式発表

※GAPの詳細は「第二部 参考資料 11~12」参照

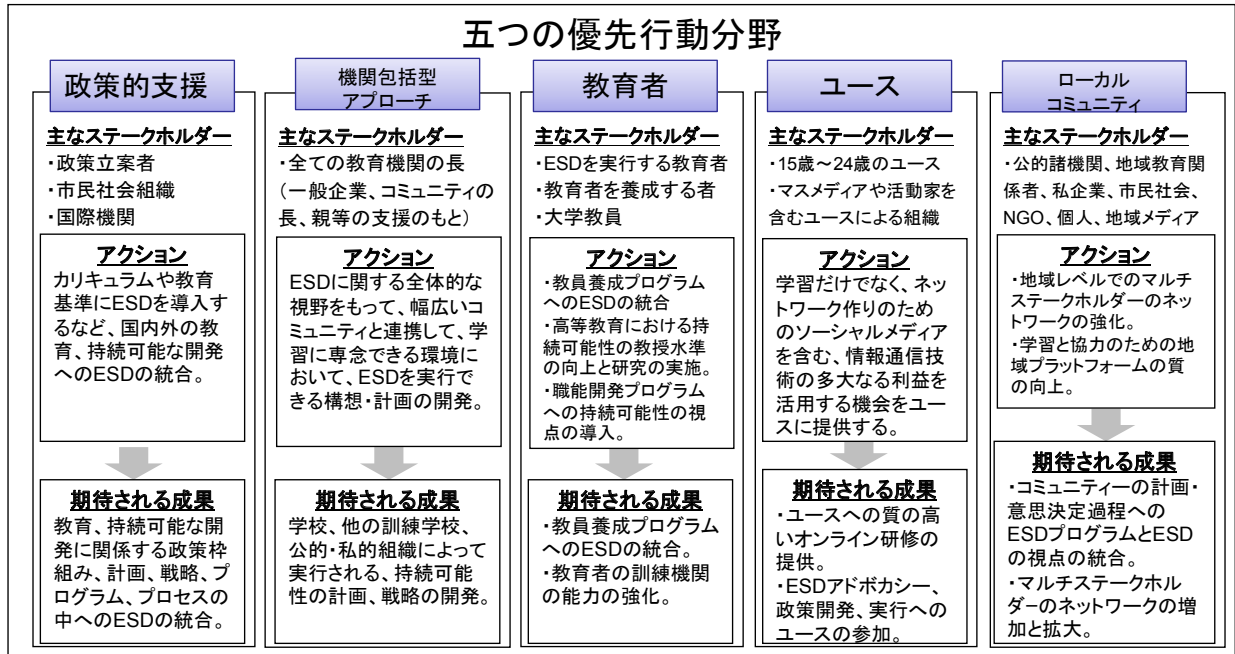
GAPは、2013年11月の第37回ユネスコ総会で採択された後、2014年12月の第69回国連総会にて承認された国連ESDの10年の後継プログラムです。「政策的支援」、「機関包括型アプローチ」、「教育者」、「ユース」、「ローカルコミュニティ」の五つを優先行動分野としており、2015年以降、このGAPに基づいてESDの取組が推進されます。今回の世界会議に合わせてユネスコが、加盟国等のステークホルダーにGAPの開始に当たり具体的な貢献を求めたところ、GAPへのコミットメントとして、80か国のステークホルダーから計363件が提出されました。

○ステークホルダーからのコミットメントの例



また、ユネスコから GAP の実行、モニタリング戦略、戦略的焦点化、ステークホルダーのコミットメントを可能とするためのプログラム目標、方針、優先行動分野について説明した「グローバル・アクション・プログラム(GAP)ロードマップ」も発表されました。

○ GAP ロードマップの概要



(3) 「ユネスコ／日本 ESD 賞」創設の正式発表

GAPの具体的な実施を促進するため、ESD へのユースの参加支援、ESD への地域コミュニティの参加の促進などGAPの五つの優先行動分野のうち、一つ以上の分野で活発に活動している個人又は団体を表彰するものです(1件当たり5万米ドル、毎年3件を表彰)。

5 閣僚級会合及び全体の取りまとめ会合の結果

※原文が外国語の場合、要約は文科省仮訳

※詳細プログラム、挨拶文及び出席者等は「第二部 参考資料 13～15、22～25、34」参照

(1) 開会全体会合

11月10日（月）9時15分～12時 名古屋国際会議場（センチュリーホール）

ア. イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長 挨拶（要約）

国連ESDの10年の締めくくりであるこの会議は、これまでの旅路の到達点であると同時に、新たな旅路の出発点であります。今こそ行動が求められています。持続可能性は新しい世界観、他者や地球に対する我々の責任についての新しい考え方、地球市民としての新しい行動や振る舞いを必要とします。教育によって、次の世紀に必要な新しい価値、スキル、知識が形成できるのです。過去10年に多くの成果を達成しましたが、2015年を間近に迎えた今、持続可能な開発のための新たなアジェンダの構築により、ペースを加速する必要があります。市民社会のニーズを満たす上で21世紀の課題に適合した教育を構築することが、グローバル・アクション・プログラム(GAP)の挑戦です。成功のためにはすべてのパートナー、民間企業と政府、御出席の方々の協力が必要なのです。



イ. 皇太子殿下 おことば

開会にあたり、皇太子殿下からおことばを賜りました（おことばにつきましては、第二部 参考資料 23 を参照してください）。



ウ. 下村博文 文部科学大臣 挨拶（要約）

文部科学大臣として、主催者を代表して心から歓迎を申し上げます。国連ESDの10年は、2002年のヨハネスブルグ・サミットにおいて、当時の我が国の小泉総理が提唱し、第57回国連総会で決議されたものです。それ以降、我が国はユネスコへの支援を通じて、国際的にもESDを推進してきたところです。我が国は、ESDに最も積極的に取り組んでいる国の一つであるとの自負を持って、国内の取組を更に充実させていくとともに、国際社会全体のESDの推進に貢献していきたいと考えています。そこで、日本としての新たな取組を発表したいと思います。全世界の中でESDに関する優れた取組を表彰する「ユネスコ／日本ESD賞」を創設することとしました。この賞が、世界中のESDの実践者にとって、より優れた実践に挑戦する動機付けとなることを期待しています。



エ. 大村秀章 愛知県知事 挨拶 (要約)

本世界会議が、ここ愛知県名古屋市で開催されますことは、誠に光栄であり、開催地を代表して心から歓迎申し上げます。愛知県では、国連ESDの10年がスタートした2005年、「自然の叡智」をテーマに「愛知万博」が開催され、また、その5年後の2010年には、生物多様性条約第10回締約国会議、いわゆるCOP10が、まさにこの会場で開催されました。ESDは、地球規模における様々な課題解決はもとより、身近な地域づくりにおいても極めて重要であり、当地域では、地域をあげてESDの推進に取り組んでおります。会議期間を通して、精一杯おもてなしをしたいと思いますので、当地での御滞在をお楽しみいただければ光栄です。



オ. 潘基文 国連事務総長 ビデオメッセージ (要約)

持続可能性というのは、私たちのこの貴重な世界を現在また将来のために守っていくための唯一の方法であります。プランBはないのです。子ども達はグローバル・シティズンシップを学ぶことによって彼らが責任ある市民として我々の共通の未来を守っていかなければなりません。本会議を通してグローバル・アクション・プログラム(GAP)を具体化していくわけなのですが、教育が特に重要であり、ポスト2015年持続可能な開発アジェンダを考えていく上で非常に重要であります。



カ. アヒム・シュタイナー 国連環境計画(UNEP)兼国連副事務総長 ビデオメッセージ (要約)

国連システム、国連加盟国、国連をサポートするNPO、非政府団体によって国連ESDの10年の活動は推進されてきました。国連は新たな持続可能な開発目標(SDGs)を交渉している最中ですが、重要なのは持続可能性への将来の視点であり、教育に対する投資がいかに重要かがその中に唱われています。教育を与えることによって人々は知識を獲得するだけでなく、力を獲得するものです。国連環境計画(UNEP)の貢献も更に加速させたいと考えています。



キ. ララ・ハスナ モロッコ王女 モハメッド6世環境保護基金代表 キーノート・スピーチ (要約)

本会議は分水嶺みたいなものです。私が代表を務めているモハメッド6世環境保護基金は、国連ESDの10年とそれを支える価値感にコミットしています。就学前教育と初等教育においては、環境に配慮した新たな世代を作ろうとしています。中等教育では環境への好奇心と責任感を育てていく活動をしています。本基金のプログラムでは常に教育と行動が指針となっています。我々一人一人が、それぞれの手段と立場で、根気をもって世界的な一貫性がある環境の中で、小さな貢献であっても行っていかなければいけません。この一貫性は、世界的規模で、かつ公正さと効率性を保たなくてはなりません。ESDによって人々の心や規範を変えていくことは簡単なことではありません。世代を超えた長きにわたる精神力を必要としています。知識と情熱とやる気に満ちたグローバル市民で、自らの



未来は自らで作っていくという市民の登場が待たれます。

ク. 文化インターロード



狂言 野村萬斎日本ユネスコ国内委員「三番叟(さんばそう)」



バイオリン演奏 川井郁子日本ユネスコ国内委員「ジュピター」「ホワイト・レジェンド」

(2) ハイレベル円卓会議

11月10日(月) 14時~16時 名古屋国際会議場(白鳥ホール)

この会議は、以下の四つの重要な問いに答える形で出席者からの発言が求められました。

1. 国によってESDへの取組に、ばらつきがあるのはどうしてなのか。
2. ESDを教育政策や持続可能な開発政策に取り入れるために効果的な点は何か。
3. ESD推進のための望ましい政策環境の構築を阻むものは何か。
4. ESDへの政策対応を強化するために、国内/国際レベルに求められている行動は何か。

ア. イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長(議長) 冒頭発言

ESDのコンセプトは既に世界に広がっています。これを具体化するために出席の皆様のお経験や御意見をぜひお聞きしたいと思います。成功事例だけでなく、どのような困難があるのか、どのように克服したらよいのか、ということも率直に意見交換ができればと思います。現在検討中のポスト2015年アジェンダは、人間を中心とした普遍的な取組となるものです。現在のアイデアや目的を更に具体的な取組につなげ、新たなダイナミズムを起こしていくためには、ここで気持ちを引き締める必要があります。これまで政治的なレベルで、また専門家や市民社会の貢献も得てESDの目標をまとめてきました。その目標を見失うことなく実行に移していく時です。フォローアップし、評価していくことも重要です。これはポスト2015年アジェンダの議論の一つのテーマにもなっています。



イ. 下村博文 文部科学大臣(共同議長) 冒頭発言

ここにお集まりの方々、これまで世界におけるESDの推進に中心となって取り組んでこられました。このハイレベル円卓会議では、これまでの各国の経験を踏まえて、今後、より一層、世界でESDを推進していくための示唆や、今後、各国が起こすESDの推進に向けた具体的な行動についての決意等を共有していただきたいと思います。2時間という限られた時間ですが、このハイレベル円卓会議



での議論は、これからの世界の教育の潮流を作っていく重要なものです。その中でESDがどのような役割を担うのか、大きな視点からの議論ができることを期待します。

ウ. Tan Sri Dato' Haji Muhyiddin bin Haji Mohd. Yassin マレーシア 副首相兼教育大臣 導入発言

人間由来による気候変動、感染症の蔓延、自然災害の頻発、生物多様性の喪失という問題に対応するために、持続可能な開発が、将来の世代のために機会確保として妥協することなく、また努力が無駄にならないようにしていかないとはいけません。マレーシアはESDにコミットしています。初等教育から中等教育においてESDを既にすべての強化に取り込んでいます。高等教育において教員・学生の能力強化が必要です。地域社会での展開も重要です。ポスト2015年アジェンダに向けた大きな目標としては、分野横断的、学際的なアプローチが必要です。地域社会の知識の共有、宗教系の組織が果たす役割を認識する必要があります。草の根レベル、教育者、政策立案者等すべてのレベルでESDがより組織的に、より大きな変革の触媒として役割を果たすことを期待します。



エ. アイダ・ハジアリッチ(Aida Hadzialic) スウェーデン王国高校・生涯教育担当大臣 導入発言

過去10年間ESDが普遍的な問題であるという認識のもと、国又は国際的レベルでどのように取り組んだらよいかということを中心に考えてきました。政府が果たす役割が重要であるという点を強調したいと思います。経験や研究成果に基づいた国内行動計画が不可欠です。持続可能性という概念を初等教育から高等教育まで教育のあらゆるレベルに取り込んできました。高等教育法も改正して、あらゆる教育機関でESDを取り込めるようにしてきました。現在人口の60%がこの教育システムを享受しています。ESDは所得の高い国のものとなっていますが、貧しい人も含めて実施していかなければなりません。そのためには国際的な支援が必要です。ポスト2015年アジェンダの中にしっかりとESDを組み込んでいくことが喫緊の課題です。



オ. Mohamed Sameh Amr ユネスコ執行委員会議長 導入発言

ESDは世界的な議論の中で欠かせない一部となっています。教育の質を向上させ、持続可能な開発を進める上で政府の役割が大きくなっています。国連ESDの10年以降も更に大きな行動を起こしていくことが重要です。ESDが質の高い教育を実現する上で不可欠な要素であり、持続可能な開発を可能にする要素との認識が広がっています。ESDはGlobal EFA Meeting(オマーン)でのマスカット合意、持続可能な開発目標(SDGs)に関するオープン・ワーキンググループの提案でも、持続可能な開発目標案として含まれています。ポスト2015年開発アジェンダについては2015年の秋の国連総会にて決定されることになっています。



カ. アンドレアス・ロヴェルドス(Andreas Loverdos) ギリシャ共和国教育・宗務大臣 発言

教育・宗務省では2005年以降、環境・教育センターを50か所設置しました。45,000件以上の教育プログラムを実施し、150万人以上が参加しました。4,000名の教員に環境や健康に対する研修を行いました。高等教育の研究でもESDを取り組み、大学1,2年生への教育を強化しています。EUの議長を務めていた際に48か国の大臣を集めた地中海連合の会議を開き、ESD推進を地中海諸国に働きかけました。皆様御存じのとおり、ギリシャは1997年の環境教育国際会議にてテサロニキ宣言を採択した実績もあります。



キ. その他の発言

- ① トルコ共和国: 持続可能な開発を達成するためには戦争がない社会が必要です。トルコはシリア危機に対して45億ドルを拠出しています。15,000人のシリアの学生、7,000人がトルコ内に設立されたキャンプ内の学校で学んでいます。
- ② カナダ: 教育は連邦政府ではなく、州が管轄しており、州同士の協力が欠かせません。質の高い教育を考える上でESDは不可欠と認識しており、八つの優先政策課題の中にESDを含めています。国連ESDの10年によって国内でESDの認識は高まりました。
- ③ サウジアラビア王国: イスラム教に則って自然と環境の保護のための活動を展開していきたいと考えています。ユネスコのメッセージが各国政府だけではなく、広く行き渡ることが必要です。各国政府にどれだけ行き渡っているかについては様々な指標を通して見ることができます。
- ④ ハンガリー: 経験的に、最も効果的だったのは様々な分野間を水平的に統合したことです。様々な政治的要請、カバナンスなどを横串を刺す形で実施するということです。また、評価モデルを導入したことによってそれぞれのシステムを評価することも効果的でした。
- ⑤ セネガル共和国: ESDを小学校・中学校・高校において学校教育システムとして取り入れています。小学校では進級試験の際に持続可能な開発に係る科目を設けています。2025年を目指したパッケージプログラムを実施しています。
- ⑥ アンティグア・バーブーダ: 我々は小さく脆弱な国の国民であるという大きな課題があります。より高い進んだ教育と専門的なノウハウ・知見の共有を国境を超えて行うことが必要です。大国は専門的なノウハウを持っています。協力をレベルアップしていく必要があります。
- ⑦ キプロス共和国: キプロスではESDに関する法が採択され取組を強化させています。ユネスコの役割は非常に重要です。ESDへの資金調達メカニズムも重要です。
- ⑧ 中華人民共和国: ESD国家ワーキング委員会を立ち上げ、持続可能な開発を主要な国家開発戦略としてとらえ、ロードマップを作成しています。ESDのコンセプトの推進、地域教育開発計画などに持続可能性を統合するなど全体の教育改革への組み込み、テスト用の教育モデルではない教育や指導方法の抜本的な変革、家族・学校・社会の間の相乗効果の4点が課題だと考えます。また、実効性のある評価、実現性の高い政策の展開、人材育成・能



上段左 トルコ、上段右 カナダ、下段左 サウジアラビア、下段右 ハンガリー



上段左 セネガル、上段右 アンティグア・バーブーダ、下段左 キプロス、下段右 中国

力開発、基準を設定したモニタリング、国際的な交流・協力の推進を行っていかなくてはなりません。

⑨ 南スーダン共和国: 第一の課題については、各国の優先順位の問題だと思います。2 番目の課題はパートナーシップに対してアクセスなどについてバランスが取れているかという問題だと思います。学校を増やすのか、教育の質を向上させるのかというプライオリティの問題は、各国がどれを優先するのかを判断することが成功の要因になると思います。



上段左 南スーダン、上段右 マラウイ、下段左 ヨルダン、下段右 イスラエル

⑩ マラウイ共和国: いくつもの世代に影響を与えることになるため、カリキュラムが重要です。カリキュラムを確実に実施するためには教員養成が必要です。

⑪ ヨルダン・ハシェミット王国: 教育において明示的に暴力でなく対話、他者の尊重、環境、安全保障の重視を唱えるべきです。正義、公平の原則を各国・国際レベルで推進する必要があります。難民が出ているような紛争状況で、教育が奪われている状態で、ESD は可能になるのでしょうか。

⑫ イスラエル国: ESD では例えば生物多様性のテーマも重要です。教育の方式も開発しています。あらゆる教育に持続可能な開発に関する知識を豊かにする要素を取り込んでいます。価値、参加、適切な内容という三つの点が重要です。

⑬ トーゴ共和国: 2015 年を基準年として、教育の質、教育へのアクセス、環境・社会経済に適応し環境を保全する教育の実施といった課題に取り組んでいます。ユースを通じた行動の変革を行っていくべきだと考えており、このことは日本、ユネスコからの資金協力・支援によって可能となっています。



上段左 トーゴ、上段右 チュニジア、下段左 スワジランド、下段右 スリランカ

⑭ チュニジア共和国: ESD を非常に強い政治的意思を持って取り組んでいます。ポスト 2015 年アジェンダについては、ESD をあらゆる側面から取り入れていくための取組を行っています。全体的な教育改革を進めています。ESD に関しては国を挙げて注力しています。

⑮ スワジランド王国: ESD に関して 11 の取組を過去 10 年間行ってきました。概念を実効性ある形で行う際の課題として、資金、考え方を変えること、教員の研修・訓練がありました。

⑯ スリランカ民主社会主義共和国: 私たちの国ではテロリズムにより 30 年間という時間を失ってしまいました。知識に基づいた社会を築きたいと考えており、そのために ESD に力を入れています。

⑰ バチカン: 教育と持続可能性の間にリンクを生み出さなければなりません。持続可能性は多極的な社会において可能になるという考えを取り入れなければなりません。



上段左 バチカン、上段右 イラク、下段左 マリ、下段右 レソト

⑱ イラク共和国: 経済的な問題、国毎に政府が出資する ESD 基金を作るとすることが重要だと思います。政治的な安定の欠如、政府だけでなく関係者が平和のために合意する必要があります。また組織の構築の遅れについては、関係者が経験を共有しあってしっかりとした体制を築く必要があります。

⑲ マリ共和国: ESD に関して、学校のカリキュラムに取り入れるなど様々なイニシアティブを進めています。マリはテロリズムにより平和が妨げられ、このような取組も長い間中断していました。ESD にも遅れを取っています。今後忍耐をもって取り組んでいく必要があります。

- ⑳ レソト王国:ESDを強化するためには、ステークホルダー、官民、省庁間の協力とモニタリング強化が必要と考え、取り組んでいます。
- ㉑ マダガスカル共和国:教育制度の改善は歴代政府にとって重要な課題です。ESD はとりわけ重点を置いたテーマです。様々なステークホルダーを巻き込む形で進めています。
- ㉒ ナミビア共和国: ESD 政策・計画はあるものの、資金調達が主要な要素となっています。実施能力欠如の問題もあります。教員の教育、政策の優先順位付けが求められています。資格を持たない教員への教育を優先するのか、他の課題を優先するのかが ESD 実施上の大きな課題です。
- ㉓ ツバル: 知識、価値感、スキルの評価方法を考える必要があります。学校の責任も重要です。認識不足の問題もあります。生物多様性、男女平等、健康の問題なども重要です。
- ㉔ トンガ王国: 持続可能な開発は太平洋諸国の生存に重要な問題であります。そのために ESD が重要です。2005 年に政府が重要課題を特定していますが、価値、知識、スキルを重視しています。
- ㉕ パレスチナ自治政府: 最新の手法で教員の教育をしようと取り組んでいます。ESD は単一の国だけでは不可能で、グローバルな観点で見る必要があります。ガザでは子供達に教育を担保するため、教育を二つのピリオドに分けています。平和なくして ESD は不可能です。
- ㉖ エクアドル共和国:ESD が広がるためには政治的な意思が必要です。南の国々にとって ESD は必ずしも優先課題となっておりません。IT などを取り入れようとすると資金も必要であり、先延ばしがちです。政府の予算確保が不可欠です。
- ㉗ クウェート国:ESD の取組に成功している国は民間部門、市民社会がどのくらい政府と共に取り組んでいるかという参画の度合いがあります。また教育システムへの期待を定義しておくことです。指標を設けて、どこまで期待しているか、どこまで教育システムに統合しているかを前もって決めておく必要があると思います。世界中の教育の全てのプログラムに ESD を統合していく必要があると思います。
- ㉘ インドネシア共和国: ESD については、民間企業、メディア、NGO と協力しています。政府が資金的な援助をして予算の 20%を教育に費やすということで取り組んでいます。教員の養成が大きな課題ですが楽観的に考えています。
- ㉙ ベトナム社会主義共和国:2005 年から ESD に取り組んでいます。政府は 2020 年を目標に教育の革新・強化を図っています。戦略的に教育のシラバス・手法を統合していくことが決定しています。
- ㉚ イラン・イスラム共和国:ESD のコンセプトを正確に理解すること、政策決定者の強い意思が成功要因と思います。体系的でバランスのとれたアプローチを開発政策に採用することが必要です。
- ㉛ エリトリア国:約 1 ヶ月前に国内の ESD 実施状況について国レベルの評価を実施しました。ESD を取り込むために様々な専門知識が必要ということが分かってきました。ESD 推進の障害として教員の確保に難しさを感じています。
- ㉜ キリバス共和国:ESD は様々な考え方に取込まれています。全国カリキュラム評価枠組みに



上段左 マダガスカル、上段右 ナミビア、下段左 ツバル、下段右 トンガ



上段左 パレスチナ、上段右 エクアドル、下段左 クウェート、下段右 インドネシア



上段左 ベトナム、上段右 イラン、下段左 エリトリア、下段右 キリバス

ESDも取り込まれています。更に評価すべきはモニタリング評価ではないかと思えます。

- ③ タイ王国:持続可能な開発というコンセプトが教育政策の基盤になっています。人間的な価値を重視する点で進歩が見られています。責任ある消費の点でも意識向上に努めています。慈悲などの東洋的な価値感に基づいて進めてきました。来年アセアンコミュニティを始めますが、ESDが知識、寛容を促進し自律性を高めることを期待しています。



上段左 タイ、上段右 フィンランド、下段左 スイス、下段右 ネパール

- ④ フィンランド共和国:教育のカリキュラムで、持続可能な生活の仕方、資源の枯渇が強調されています。国内で評価を行ったところ、ESDはより良く統合されており、ステークホルダー間の役割分担の明確化、地域社会への支援の強化が必要と評価しました。国として「持続可能性に対する社会のコミットメント」というプロセスを開始しています。
- ⑤ スイス連邦:この10年でESDは目を見張る成果を見せました。教員の養成に力を入れてきました。横断的なアプローチの難しさを感じています。ESDを各学校に取り入れて教育の質を高めることに貢献していくことを目指しています。
- ⑥ ネパール連邦民主共和国:ESDを導入し教育省を始めとするメンバーによる委員会を設置しています。識字率向上の教材において気候変動、水といったテーマを取り扱ってESDを推進しています。選定された地域ではESDのための能力強化が行われています。学校がESDを推進する手段として最も最善であることが学校管理委員会により実証されました。

(3) 第2回全体会合

11月11日(火)9時~10時30分 名古屋国際会議場(白鳥ホール)

アペジ・オグブイグエ ANPEZ 環境と開発センター(ナイジェリア)の司会により、ナーナ・ジェイン・オポク・アジマン ガーナ教育大臣、キーショウ・シング 国連教育を受ける権利に関する特別報告者、レスリー・ジョーンズ 国連環境教育基金副会長、ホワン・ディアス・デ・ラ・トレ メキシコ国立教育労働組合、ベルナルド・ニコラウ・ゴンサルヴェス ユネスコスクール世界大会代表(ブラジル)の5名のパネリストによって行われました。

「2030年に向けて、いかに教育は変わっていくべきか」という問いについては、教育は知識・技能を得る場というだけでなく、姿勢、考え方、価値感を共有する場として考えるべき、大きな社会の変革に教員が対応していくことが必要、マララ・ユスフザイさんが「一本のペン、一冊の本によって世界を変えることができる」と言っていたが、そのとおりであり、世界を変えることはできるはずで変えるべき、との意見が出ました。

「挑戦することについて前向きな変化が起こっているか、その変化への障壁はなにか」という問いについては、十分な変化が起こっていない、現在教員が最も知識を持っている存在でないという新しい形に適応していかないといけない、教育が市場原理の働くビジネスの世界に取り込まれてはいけない、変革が重要であることを想像しそのための力が必要、教育の質は持続可能な開発には欠かせないもの、将来に必要とされる新しいコンセプトによって新しい倫理を構築しなければならず、企業、NGO、政府が新しいコンセプトに基づいて行動する必要がある、幸福や自己実現のために教員の能力養成が必要、との意見がでました。

その他参加者より、インターネットは人間同士を近づけるより遠ざけてしまうのでダイレクトなコミュニケーションは必要、学校・家庭始め関係者間の相互作用が重要、ESDを取り入れた教育実施には教員だけでなく家庭も役割を果たすべき、という意見がありました。



パネリスト



全体の様子



参加者

(4) 第3回全体会合

11月12日（水）9時～10時30分 名古屋国際会議場（白鳥ホール）

エバ・フリーマン スウェーデン持続可能な開発教育のための国際センター会長による司会で、ローザ・オトゥンバエワ キルギスタン前大統領、高橋ひなこ環境大臣政務官、ハンス・ファン・ヒンケル元国連大学学長、アラブ・ホバラ国連環境計画技術・産業・経済局持続可能な消費と生産支局チーフの4名のパネリストによって行われました。

「教育は持続可能な消費、生物多様性の保持といったグローバルな問題に対しどのように対応していくべきか」という問いについては、教育には日常生活と環境との関わりについて気付きを与える役割がある、生涯教育や発展途上国の女子への教育といった観点をESDにも取り入れる必要がある、今の子供たちにはITを使いこなす力があり、大人たちとは違った見方で世界を見ている、大人たちはそれを理解し統合していく必要があるという意見がでました。

「持続可能な開発の問題のために、教育は有効に反映されているか、政治的な障壁はあるか」という問いについては、日本は災害の教訓を世界に発信する役割がある、SDGsにESDを盛り込む必要がある、教育には世界の状況の変化をよりスピーディーに反映させるべきである、教育は、既に世界の変化に対し非常に早く関与してきている、という意見が出ました。

「教育は持続可能な開発の問題に対応するのに十分であるか」という問いについては、日本ではESDに関して人材育成・教材開発・組織間の連携の点で十分とは言えず今後の課題である、日本やドイツ、スウェーデンなどの優れた国の取組についてソーシャルメディア等を利用して世界的に共有すべきである、教育における変化の量が十分ではなく、消費者教育とライフスタイルの転換が重要である、教育はすべての基礎であり推進要因である、という意見がでました。

その他参加者より、幼児教育においてもESDを取り入れるべきである、先住民から持続可能な開発について学ぶべきである、といった意見が出されました。



パネリスト



全体の様子



質問者